

デジタルスクリーンのススメ

スクリーン印刷の新提案



間隔を空けて
お並びください



使えるインクの種類や印刷対象の豊富さは、シルクスクリーン印刷の大きな利点。「GOCCOPRO」とIJPを組み合わせれば、より幅広い仕事への対応が可能となる

IJPとの組み合わせによって、エンドユーザーへの提案力を強化 ローコストでサイン製作会社の内製化を後押しするデジタルスクリーン製版機

孔版印刷機で世界トップシェアを持つ理想科学工業が提供するデジタルスクリーン印刷機「GOCCOPRO（ゴッコプロ）」シリーズ。これまでの連載で、マシンの特徴やシルクスクリーン印刷のメリットを紹介してきた。今回は、実際にデジタルスクリーン製版機を導入した際に生かせる他マシンとの連携やコスト面にフォーカスし、リアルな活用方法について探っていく。

まず、サイン製作会社にとって、いまや欠かせない設備となっているIJPとの親和性を見ていこう。素材にインクを吐出してビジュアルを表現するという意味では、一見似た性能とも思えるが、その特徴は大きく異なる【図1】。

シルクスクリーン印刷のインクは、溶剤IJPのように出力機種に固定されないため、インク選択の自由度が高く、蛍光や蓄光、ラメ入り、香料タイプなどのさまざまな特殊インクに対応する。素材も選ばず、アクリルプレート、フロア

シート、紙、Tシャツ、合皮、木材などはもちろん、果ては陶器やコロナ禍で流行したフェイスマスクにまで印刷できる。なおかつ高い屋外耐候性を維持している点は、他の印刷方式にはマネできない大きな強みと言えるだろう。

一方で、フルカラー印刷やオンデマンド性においては、IJPに適正がある。これらの武器を互いに組み合わせること

ができれば、クライアントの細かなニーズに合わせた多角的な提案が可能となるだろう。

加えて、ゴッコプロのRISOドライ感熱スクリーン製版システム（RISO DTS = RISO Dry Thermal Screen System）によって、これらの長所はそのままに、大掛かりな設備や高い職人技術を必要としていた製版工程をデジタル化。ネッ

【図1】 デジタルスクリーン製版と溶剤IJPの特徴

	デジタルスクリーン製版	溶剤IJP
インクの種類	○	× ^(※)
多様な印刷対象物	○	△
フルカラー印刷	△	◎
インクの遮蔽性	◎	○
維持コスト	○	△
フォトオリティ	△	◎
屋外耐候性	◎	○
操作性	○	○
競争の少なさ	○	×

■看板経営調べ

※ 溶剤IJPは、UVインクなどを搭載できないため

【図2】 「24時間監視カメラ作動中」サインサンプル制作コスト

アクリル板サイズ：W600×H450（mm）
使用インク：セイコーアドバンス SG740（溶剤）
仕様：2色印刷（黒、赤）

10枚制作時

① 製版コスト（RISO デジタルスクリーンマスター）
QS250P-56-20C（250メッシュ）/クイックフレーム A 57×80

¥2,000 × 2色2版 = **¥4,000**

② 印刷インク+版洗い剤コスト（10枚分）
セイコーアドバンス SG740（印刷インク）/洗剤T-15（版洗い剤）

¥250（印刷インク2色2版分）+ ¥100（版洗い剤2版分）
= **¥350** ※2

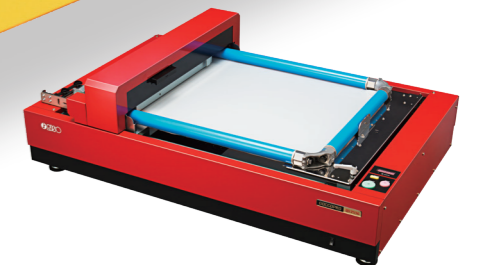
※2 インクはセイコーアドバンス SG740、版洗い剤は洗剤T-15を使用して「24時間監視カメラ作動中」サインを実際に印刷した場合の実測値。アクリル板代は別。印刷条件などにより印刷コストは変動いたします。

■ トータル印刷コスト

1枚あたりトータルコスト ¥435

10枚制作時トータルコスト ¥4,350（① ¥4,000 + ② ¥350）

■理想科学工業調べ



GOCCOPRO QS2536

クであった作業工程を大幅に短縮できる。露光機や洗い場も不要なため、設備の維持管理費や電気代、人件費も節約できる上、消費樹脂量も大きく削減と、環境への配慮も万全だ。同マシンの導入が製作会社の独自性を高め、仕事の幅を広げるのに大いに役立つのは、想像に難くない。

とはいえ、予算を潤沢に持っていない企業にとって、気になるのはマシンを維持するためのコスト面であろう。ゴッコプロ QS2536・QS1836であれば、その面も心配不要だ。同社では、デジタルスクリーン製版機のコアとも言え

る「サーマルヘッド」が故障した際に、無償で部品を交換・修理してもらえるサービス「RISO TPH 無償交換サポートパック」を提供。万が一の故障による費用負担を考えず、安心して使用できる。さらに言えば、非常にシンプルな構造のため、そもそもの故障が少ない堅牢性も同シリーズの強みだ。定期メンテナンスを必要としないにもかかわらず、安定稼働を続けているというユーザーからの声もあるという。

また、シルクスクリーン印刷本来の特長である、印刷コストが低く済む点も嬉しい。例えば、W600×H450（mm）のア

クリルボードを10枚印刷した際にかかる費用が【図2】だ。もちろん一度作った製版は連続印刷できるので、大量生産するほどコスト削減率はアップ。印刷、維持管理の両面で費用を抑えられる。

ニーズの多様化が進む近年、社内でも業務を完結できる内製化は、サイン製作会社のひとつのテーマとなっている。他社との差別化が求められるこの時代に、競争力を高めるためには何ができるか。まずは出力分野の領域を広げるため、補助金制度を活用できるこの時期だからこそゴッコプロの導入を検討してみるのも一考だ。



RISO デジタルスクリーン製版機の情報サイト
【ゴッコプロフォーラム】
<https://goccoproforum.net/jp/>

お問い合わせ

理想科学工業株式会社

プリントクリエイティブ事業部
〒105-0004
東京都港区新橋2-20-15
新橋駅前ビル1号館4F



お客様相談室

0120-343-338

受付時間 10:00～12:00 13:00～17:00
（土日祝日、夏期休業、年末年始を除く）

<https://www.riso.co.jp/product/digitalscreenmaker/goccopro/>